

ペットショップで出会ったどうぶつたち

二年 山口真穂

私とまるくんとのお会いは近じよのペットショップだった。かおも目も体もまんまるでかわいくて心をうばわれた。私の家では一ぴきねこをかっていたので、すぐにもう一ぴきはかえなかった。私は毎日のようにペットショップにまるくんに会いにいった。『まるくん』とは私がかつてにつけた名前だ。

まるくんのケージはせまくて、あそぶおもちゃがこわれてしまっていた。あそび相手はケージの中にたまに現れる小さな虫で、虫を見つけてると、まるくんはともうれしそうにしていた。(いつかかってくれる人が出てきてくれるから、それまでのがまんだよ。)と、私はまるくんに声をかけながら、少しむねのおくがチクンといたくなっていた。

まるくんはともかわいいのに、なかなかかかってくれるお客さんがいない。出会ったのは生後二週間目だったけれど、あつという間に三ヶ月たって、まるくんは大きくなった。前からかわらないケージは前よりもつきゆうくつそうに感じた。半年たった。その頃にはまるくんのねだんがわりびきされていて、その「わりびき」の文字を見た時に、まるくんはこんなにかわいいままなのに、かちがなくなつたの?とくやしい気もちと、まるくんをかってくれるだれかが現れないかなしさでなみだが出てきた。

もし、まるくんがこのまま売れなかったらどうなるのか、お父さんとしらべてみた。保けんじよが引き取らない法りつができていたことはわかったけれど、それ以外は売れのこつたペットたちが幸せな生き方をしている、というじょうほうはなかなか見つからなくて、私はまるくんのことがどんどん心配になっていった。

私は半年ほぼ毎日ペットショップにかよつたけれど、子ねこや子犬ばかりがかつてもらえて、そうでないどうぶつはずつとせまいケージに入つてずんずん大きくなっていったり、売れたわけではないのにどこかにいなくなつていたこともあった。

ペットショップにいるどうぶつはみんな幸せなのかな…私にとつたらどのどうぶつも命の重さはまったく同じなのに、それぞれのねだんがつけられていたことに、はじめて気づいた。命のねだんってなんだろう。

私はまるくんをこのままにしておけなくて、だきしめてあげたくて、自分のちょ金と足りない分は次のおたん生日プレゼントをがまんする代わりにお父さんにお金をはらつてもらつてかつてもらつた。他のどうぶつもみんなかいたけれど、どうしてもできなくて、どうかこの後もこの子たちがずっと幸せにすごしてほしい気もちでいっぱいだ。すべてのどうぶつが幸せに生きるにはどうしたらいいんだろう。私はこれからもずつとかんがえつづけたい。